

## 由利本荘市沖（北側・南側）における協議会（第5回）

### ○日時

令和6年3月18日（月）14:00～15:30

### ○場所

秋田キャッスルホテル 4階 放光の間

※一部の構成員等はWEB会議形式にて参加

### ○参加者

- ・ 経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー課風力政策室  
石井室長
- ・ 国土交通省港湾局海洋・環境課海洋利用調査センター  
榊原所長
- ・ 農林水産省水産庁漁港漁場整備部計画課 森田計画官
- ・ 秋田県産業労働部 阿部クリーンエネルギー政策統括監
- ・ 由利本荘市 湊市長
- ・ 秋田県漁業協同組合 加賀谷代表理事組合長
- ・ 秋田県漁業協同組合  
佐藤副組合長／南部地区運営委員長（欠席）
- ・ 秋田県漁業協同組合 後藤理事／南部地区運営委員会副委員長
- ・ 東北旅客船協会 武内専務理事
- ・ 秋田大学 中村名誉教授
- ・ 秋田県立大学システム科学技術学部 杉本教授
- ・ 秋田大学理工学部システムデザイン工学科 浜岡教授
- ・ 東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 松本客員准教授
- ・ 秋田由利本荘オフショアウィンド合同会社  
三菱商事洋上風力株式会社 岩城プロジェクトダイレクター
- ・ 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 中山審査官（※）  
（※オブザーバー）

## ○議題

(1) 漁業影響調査手法・事業進捗について【報告事項】

- 秋田由利本荘オフショアウインド合同会社 三菱商事洋上風力株式会社より資料3について説明。

### 秋田県立大学

- 資料25頁に記載の人材育成について、大学においては、洋上風力に関する座学は充実してきているところであるが、当該分野に就職する学生は多くはないのが現状。
- 理由として、学生からは当該分野の業務の内容が明確でないことが一番の原因であると考えている。
- そのため、職場体験、バックヤード見学なども重要な取り組みであると考えており、当該事項について、具体的にどのようなことが行われているのか教えていただきたい。

### 秋田由利本荘オフショアウインド合同会社 三菱商事洋上風力株式会社

- 職場体験については、国際教養大学の寄付講座の一環として、陸上風力である秋田潟上ウインドファーム発電所（本事業と同事業者の出資で実施）を実際に見学いただき、開発の経緯など、現場の理解を深めていただいている。また、学生の卒業制作の際のインタビュー対応などの理解を深めていただく取り組みも行っている。
- バックヤード見学については、今後の取り組みとなるが、整備予定のO&M関連施設などの見学を考えている。

### 由利本荘市

- 最近の本市市民の洋上風力に対する認識について、本市は南北だけでなく、東西も40kmに渡り、大仙市、横手市、湯沢市などと隣接しており、沿岸部だけでなく、山間部も含まれる市域となっているが、最近では沿岸部だけでなく、山間・内陸部も含めた市全体、市の様々な場所で洋上風力への関心が高まっている状況。
- 今までは、山間・内陸の市民から、洋上風力に関する問い合わせなどはほぼ無い状況であったが、最近では同市民との話の中で洋上風力に関する話題も上がるようになってきている。
- 山間・内陸の市民の興味、質問の大多数は、洋上風力による市へのメリットに関することであり、市としても、基金、地域共生策など

に関する説明を行っているところである。

- 事業者に対しては、現時点では山間・内陸の市民への説明会の開催をお願いしている状況では無いが、今後は、お願いする可能性もあり、本市としても可能な限り同市民への説明を行っていく。
- 地域共生の取り組みについて、本市新山小学校に対して出前講座などの取り組みを行っていただいております、子供の洋上風力に対する理解も深まっていくものと考えています。
- 本市においては、県立大学の本荘キャンパスも立地しており、国際教養大学との連携とともに、県立大学とも連携した取り組みをお願いする。
- 事業に関する市民への説明などについて、今後、環境影響評価の準備書などが公表されていくことになり、引き続き市民への丁寧な説明、報告をお願いする。
- 漁業影響調査について、事業を行う海域は漁業者の仕事、生活の場であり、引き続き、丁寧な説明をお願いする。
- 漁業者との関係について、今後、長期に渡り連携しながら事業を進めていく必要があることから、良好な関係の保持をお願いする。
- 事業における地元企業との連携について、マッチングの機会を設けていただいていることに感謝を申し上げますとともに、商工会議所、事業者に対しては本市からも積極的なアピール、参加を引き続き促していく。
- 本事業は、本市の事業者にとっても大きなチャンスであり、本事業に対して好意的な認識を持っていただきたいと考えています。
- 本荘港の利用について、当港は大規模港ではないものの、O&M港として利用できること、利用する計画を示していただいていることに感謝を申し上げますとともに、引き続き利用に向けた取り組みをよろしく願います。

秋田由利本荘オフショアウインド合同会社 三菱商事洋上風力株式会社

- ご指摘のあった、市民への説明、漁業影響調査、漁業者との関係、地元企業との連携、本荘港の利用などについて、十分に留意し、引き続き関係者の皆様と連携しながら事業を進めさせていただきたい。

秋田県漁業協同組合（理事／南部地区運営委員会副委員長）

- 先日、事業者に参加いただいた運営委員会を開催したところであるが、地盤調査による魚への影響など厳しい意見が示されたものと認識している。
- 今年も鮭、ハタハタが大不漁であり、地盤調査の影響を疑うような意見も示されており、今後、長期間に渡る漁業影響が把握できるよう、丁寧な調査を行っていただきたい。
- 漁業者との共生策について、他県においては漁業者が出資をし、風車のメンテナンスの会社を設立したとの話も聞いており、そのような事例があれば教えていただきたい。

#### 秋田由利本荘オフショアウインド合同会社 三菱商事洋上風力株式会社

- 洋上風力の調査や建設がどのような影響を及ぼすのか、漁業影響調査を踏まえて確認を行っていく。
- これまでと同様、判明した情報などについては、透明性を確保し逐次報告をさせていただく。
- 引き続き関係者の皆様とは連携しながら事業を進めさせていただきたくよろしくお願いする。
- 風車のメンテナンスの会社を設立については、銚子市沖の事業におけるC-COWS（シーコース）であるものと想定される。
- 同事業は本事業と同事業者の出資で実施しているため、風車のメンテナンスへの関与などに関する情報の収集を行い、当事業においても同様の仕組みが導入できるか否かなどに関して報告、相談をさせていただく。

#### 秋田大学（座長）

- 県内でも漁業者が出資をした風車メンテナンスの会社が設立されているものと認識しているが如何か。

#### 秋田県漁業協同組合（代表理事組合長）

- 昨年、漁協（県漁協、峰浜漁協、浅内漁協、八竜漁協）をはじめ、建設会社なども含め、10数社が出資をし、風車メンテナンス会社（秋田マリタイムサービス）を設立した。
- 今後どのような事業運営を行っていくかは現時点では未定であるが、漁業者が先頭に立って風車のメンテナンスを引き受ける仕組みが構築されることを望んでいる。

#### 秋田大学（座長）

- 洋上風力は海域で行われる事業であるため、漁業者が先頭に立って進めていくことは望ましい形である。
- また、O & M港としては本荘港が計画されており、本荘の海域であれば、本荘の漁業者が最も海域の状況を把握しており、当該漁業者が先頭に立って進めていくことは望ましい形である。

#### 秋田大学（座長）

- 資料6頁に記載の工程計画について、本海域における地盤が当初想定よりも軟弱であることが判明したため、海底地盤調査の追加実施を予定しているとのことが示されているが、状況に応じて追加調査を行うことは好ましいことである。
- 早急に事業を進めていくことも重要であることも理解はできるが、事業を進める中で何が起こるか分からない面があり、特に初期段階では十分に確認を行いながら慎重に事業を進めていくことが必要。
- 現時点で洋上工事開始時期や運転開始時期への影響はない旨も示されているが、先を急いでしまうと最後により大きな問題が生じる可能性がある。
- 仮に風車の倒壊などが生じた場合、それまで進めてきたことが、無駄になり、また、信頼の大きな低下も招くことになり、状況によっては、計画を遅らせる決断をすることも必要。

#### 秋田大学（理工学部システムデザイン工学科）

- 当事業における地域共生策について、発電の開始前の段階で様々な共生の取り組みが進められ、事業者より地域と共生していく意思を示していただいていることについては、地元にとって有り難いことであるが、県内の他事業と比較すると、本事業においては取り組みが少し少ない印象も抱いている。
- 当事業は、県内他事業と比べて事業規模（発電量）が大きく、更なる取り組みの検討もお願いしたい。
- 当事業で使用される風車発電機（13MW）について、イギリスのプロジェクトにおいても導入されている発電機であることを承知しているが、同海域では14MWの風車発電機も導入されている。
- 14MWなど、更に大型の風車発電機が導入できれば、発電量の増

大も期待でき、本事業においても導入可能性はあるのか。

秋田由利本荘オフショアウィンド合同会社 三菱商事洋上風力株式会社

- 地域共生に関するご指摘について、県内の他事業においては関係する自治体が当事業より多く、それに応じて、地域共生の取り組みも多くなっている。
- 地域共生の取り組みは、開始してからまだ2年程度の状況であり、由利本荘市とは連携協定を締結し、地域共生の方向性の共通認識までは図られているが、具体的にどのような取り組みを行っていくか、協議を継続している状況。
- 今後も、地域共生の方向性に合致した成果が出せるよう努めていく所存であり、他事業と比較して地域共生の取り組みが劣っているものでない点ご理解いただきたい。
- 大型の風車発電機の導入について、外観が大きく変わる発電機の導入は難しい面がある。
- 風車メーカーとは常に情報疎通を行っており、その中で外観が大きく変わることなく14MWの出力が実現できる可能性もあるが、内部パーツの変更によりコストが変わる可能性もある。
- 以上のような状況を踏まえると、現時点の条件下では、提示の風車発電機（13MW）が最適であると考えている。
- 今後風車メーカーとの情報疎通を行う中で、より最適な風車発電機の導入が可能であれば、制度・ルールの範囲内で変更も検討していく。

秋田大学（理工学部システムデザイン工学科）

- 承知した。よろしく願います。

## (2) 基金等を通じた振興策の実施について【審議事項】

- 秋田県（事務局）より資料4について説明。

### 秋田県（事務局）

- 資料4について補足させていただく。
- 提示の基金の管理運用の内容については、由利本荘市、漁業者と協議を行った上で整理したものであるが、今後、透明性が確保された上で、別の方法で基金を管理運用していくことであれば、秋田県（事務局）に報告いただくこととなる。
- 基金の配分に関しては、行政・漁業者間で十分に協議いただき、結果を秋田県（事務局）に報告いただくこととなる。
- 今後、風車の設置場所によっては隣接している秋田市、にかほ市との境界に関する協議が必要となる可能性も否定できず、その際には別途協議いただくこととなる。

### 由利本荘市

- 秋田県（事務局）より提示の基金の管理運用について、地域の住民や産業への地域振興策のための地域振興基金、漁業者への漁業振興策のための漁業振興基金に分けて管理運用すること、地方自治法に基づく予算・決算に関する議会・監査委員の審査を通じて透明性を確保することなどは好ましい仕組みである。
- 漁業振興策については、漁業者の要望を十分にくみ取った上で、市が実施することも考えられ、具体的内容については漁業者、事業者、市の間で十分な協議を重ねていきたい。
- 隣接市との境界に関する協議について、本市の立場としては本市を中心として検討いただきたいのが本音であるが、必要であれば協議も行いながら進めていきたい。

### 秋田県漁業協同組合（代表理事組合長）

- 市と漁業者の基金の配分について、柔軟な運用が可能なように検討いただきたい。
- 例えば、一旦配分を半々と決めた後、漁協で大規模な施設整備や改修などを行うことになった場合などにおいては、漁業者への配分を7割に増やし、その後は3割に落としていくなどの運用である。

### 秋田県（事務局）

- 基本的には行政と漁業者との間で合意がなされれば柔軟な運用も問題は無いものと考えている。
- 漁業者の基金の運用についても、繰越などの財務処理の方法があるものと考えており、今後協議を行いながら進めさせていただきたい。

#### 秋田大学（座長）

- 基金等を通じた振興策の実施について、基金の配分などの協議は今後必要となるが、事務局の案に特段の反対意見がないため、案の通りとしたいがよろしいか。

（異議なし）

#### 秋田大学（座長）

- 事務局の案を了承することとする。

#### 事務局（経済産業省）

- 今後の協議会の進め方について確認させていただく。今後の協議会の進め方については参考資料3に整理している。
- 協議会は、事業の進捗等を確認するために少なくとも年1回は開催することとしている。
- 次回の協議会については、事業の進捗状況を選定事業者から報告いただくこと等を主な議題として、開催したいと考えている。
- 具体的な時期については改めて調整させていただきたく、引き続きよろしく願います。

#### 秋田大学（座長）

- 事務局及び事業者においては、本日の議論を踏まえて、次回以降の協議会に向けて、準備を進めていただきたい。

以上